「日々の理科」（第 833 号） 2016（H28）,10,17

「台風 16 号の模型（２）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

今年も脱脂綿を使った台風模型の制作が始まった。今回は、気象庁の衛星画像と同じ台紙（地図）を用意した。まずは「衛星画像をよく観察する」ことを主眼に取り組ませた。この種の活動は、いい加減にやろうと思えば、いくたれも手を抜くことができる。ろくに資料も見ずに、適当に終わらせることがないように、「早く仕上げることよりも、いかに衛星画像に近づけるか」をよく話しておいた。

私は各研究所（班）で「あーだこーだ」言いながら活動することを期待していたのだが、意外にも一人ひとりが作業に没頭してしまい、あまり関わり合いが起きなかった。何かしらの工夫が必要だと思った。

台風 16 号が、典型的な秋の台風径路をたどりそうだとわかった時点で、台風 16 号の資料をできるだけ集めておくように指示をしておいた。子どもたちは、新聞記事や、雲画像、天気図などを持ち寄っていた。それらも参考にしながら、取り組む子どももいた。

制作過程は非常に単純だ。「雲のあるところに綿を貼る」「雲の厚いところには、綿も厚く貼る」これだけである。特に台風の周辺は、雲（主として積乱雲）が密集しているので、厚く盛り上げる必要がある。のりは「スティックのり」、脱脂綿は「カット綿」が良い。作業中の机上を見ると、楊枝、ピンセット、綿棒なども見られ、細かい作業はそれらを使う。

のりを台紙に塗ったあと、そこに脱脂綿を軽く押し付けると、薄い雲ができる。そこにもう一度のりを塗って、再度脱脂綿を押し付けると、少しずつ雲が厚くなってゆく。

「主題」の台風の雲から作り始める子どももいれば、最初に練習を兼ねて周辺の雲を作り、慣れてから、台風を作る子どももいた。ものすごい集中力で、黙々と作業する子どもが多かったのが印象的だった。